

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(幸館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	平成26年1月28日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物が、「グループホーム花みずき」です。入居された方が自由にのびのびと暮らしていただけるように、健康と安全に配慮した援助をご提供させていただいています。また、入居されている方と職員が共に生活を楽しみ、暖かい雰囲気を大切にしています。入居されている方にとっても、そのご家族にとっても、のんびりと寛げる”別荘”という感じで利用していただけることを目指しています。更に今年度は、花みずきの南側に新しく作った畑を利用して農作業を通じた地域交流を始めました。立地環境の利点を活かして、地域社会との繋がりを大切にしたい”ホッとできる”施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本家屋に和の玄関と庭をもつ仲良しご近所が3軒(ユニット)建ち並び、庭先の紅いさざんかが風に揺れるなか、お地蔵さんが笑顔で迎えてくれる事業所です。多種多様な福祉サービスが集積していますが周辺に住宅がほとんどなく、“地域とのつきあい、が長年の課題でした。これまでの準備が実り、本年度からは敷地南側に作った畑で農作業を通して地域交流への道が開かれています。また、毎月目標を立てマネジメントサイクルにのせて見直しを行い、実現力を高めることで職員の自発性を養うという新たな取組みもあり、来年度のさらなる成果が楽しみとなり膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下に、グループホームの使命が果たされる様に経営方針を決め、管理者と職員が共通認識に立って実践につなげていけるように取り組んでいる。	毎月のケア会議の前にクレドを読み上げています。理念は求人募集をはじめ至るところに示してあり、「やさしく、ゆったり、よりそった介護がしたい」との希望者が働いていることが実践に大いに反映しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園、中学校、老人クラブとの定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋げている。	畑を通じた地域交流が始まり、植つけから収穫祭、年長児との芋掘りは利用者も大喜びでした。老人クラブの皆さんが気にして立ち寄ってくださり、「サツマイモ植えたら？」と声が届いて、畑の手ごたえを充分感じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が主催して行っている地域交流事業に参加することを通して、事業所の役割を活かした地域貢献を行っている。今年度は、9月の介護者教室で「認知症の予防」の話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は近隣のグループホーム管理者も委員に加えて、年間計画を立てて定期的に開催している。また、利用者の日常の様子を毎回スライド上映で伝え、話し合いを行っている。	行政、地域包括支援センター、地域事業所施設長、民生委員、法人理事と顔ぶれが豊富で、定期開催が叶っています。すべての人が揃うのはなかなか難しい状況にありますが、家族は輪番で必ず参加があります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として区役所の職員に参加していただき連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	管理者が福祉に係る公的な役務を歴任していることもあり、日頃から行政との連携が図られています。法人では介護教室を開催していて、事業所からも講師として出向き、地域密着型としての役割を果たしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、ケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意してケアに取り組んでいる。	「やさしく、ゆったり」の浸透でスピーチロックもみられず、現状身体拘束が必要な利用者もいません。葵館では職員に声を掛けずに外出する人のために、玄関にチャイムがありません。ただし「チャイムがその人への抑制にならないように」との共有認識はもっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用職員へのオリエンテーションの中で「高齢者虐待防止法」についての教育を毎回行っている。また、法人内外の研修に参加することを通して継続的に学ぶ機会を持ち、日々のケアの中で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者が複数いるため、日々の支援を通して学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を十分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度等の内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ委員として家族代表に参加していただいたり、家族面談等の場を使って積極的にご意見を聞くように努めている。	短冊に願い事を書く七夕、冬は初詣として家族会が続いています。ケアプランにも足を運んでもらえ、普段から話しやすい関係にあります。生活環境に及ぶことまで考えをもち、中庭の改築も家族意見で実現しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やマネジメント会議を通して職員の意見や提案を聞くと共に、職員個別面談や意向調査等を通して積極的に意見を聞く機会を作っている。また、法人内ではアメーバ経営により職員の意見が法人経営に反映されている。	会議のほかトップに直接届く意向調査や個別面談と、進言の機会がふんだんにあります。夜勤体制と体調の具合から異動を申し出た職員が特養に移った例もあり、職員希望が叶いやすい体制が覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と個別面談を行い、更に年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として毎月1回職員研修を行うと共に、事業所毎では積極的に法人外の研修参加の機会を作っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に企画し、職員に参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い、本人の生活の様子を見させて頂いている。また、直接話をする事で本人の要望を事前に確認し、入所後の生活が安心したものとなるよう支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所後ともに家族の来館時には要望や不安に思っている事をうかがい、それに応えられるよう関係づくりに努めている。また近況報告を行い、意見や感想をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	趣味活動やリハビリ等、本人と家族の要望に合わせて移動図書・訪問リハビリ等のサービス利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と一緒に洗濯・掃除・料理などを行ったり、一緒に歌をうたったりと、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に最近の生活や健康の状況報告を行い、必要に応じた電話連絡もしている。家族が相談しやすい環境作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊等を目途にして頂き、家族等が心おきなく来館できるよう努めている。家族会では、キーパーソン了承の上で、キーパーソン以外の家族や知人に参加して頂き、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	年賀状、暑中見舞い支援を続け、また誕生日に「会いたい人(場所に)に会いに行こう」という企画を葵館では行っています。幸館と葵館では生け花の講師が月に2回訪れ、新たな馴染みの関係が形成されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事などを通し、利用者が集まったり、協力し合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、面会へ出向いて経過を見守るように努めている。また、家族から相談があった場合もその都度対応し、必要であれば法人外の施設へも出向いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションの中で、希望や意向の把握に努めている。困難な場合で合っても本人の立場に立ち、家族と相談しながら随時検討している。把握をした希望等は必ず職員間で情報交換し、共有している。	“家族と2人3脚のケア、は重要事項説明書にも記載され方針として確立しており、本人から捉えにくいものは家族の協力で掘んでいます。申し送りノートはタイムリーに職員共有されるツールとして活躍しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談、センター方式の活用、家族への聞き取りを行ない、生活歴や馴染みの暮らし、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、職員全員で意見を出し合い、多面的かつ本人の意に沿った内容となるよう努めている。また、ケアプラン面談時に家族の意見を聞き、その後のケアに反映させている。	全員がプラン作成できるとの高い目標を掲げ、新人職員にはユニットリーダーが指導にあたり、新人であっても家族に直接説明をする重責を担っています。本年から看護師がケアマネージャーの役割を兼務しています。	プラン作成のトレーニングがさらに継続していくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、それを職員間で情報交換している。必要に応じた対応を随時確認し合い、実践、ケアの見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者の状況に合わせたニーズを把握するよう努め、家族の協力を得るなどしながら柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外出を計画したり、家族との外出・外泊を応援したりしている。また、法人内の施設で地域の施設団体と協力して夏祭りを開催し、参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等が希望するかかりつけ医がある場合は、入居後も継続してその医療を受けられる様支援している。特にない場合は施設と協力関係にある医師からの医療支援を受けられるようにしている。	年々変更され、現在は全ての利用者が協力医となりました。月2回の往診にはケアマネージャーである看護師と職員が立ち合い、記録もとっています。隣接してクリニックが建つ予定もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡や相談を密にとり、必要に応じて受診したり、協力医へ連絡・指示を仰ぐ等、適切な対応がとれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、本人が安心できるよう可能な限り面会に訪れ、医療関係者と情報交換を行い、早期退院に向けて病院関係者・家族と相談するようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時や状態が変化した際には家族と話し合い、事業所内で出来る事等を十分に説明し、その後の支援に繋げている。また、協力医や同じ法人内の事業所と連携して支援に取り組んでいる。	医療行為が必要ではないことや、家族の協力が得られるかといった事柄がクリアされれば看取りに取組む体制にあります。職員のメンタルケアも鑑み、重度化した場合は利用者個人仕様の看取りマニュアルを作成しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で心肺蘇生等の講習を行ったり、看護師から指導を受けている。また、連絡簿や医療情報ファイルを作成し、速やかに対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年3回実施すると共に、法人で行う災害対策の研修に参加している。職員の入れ替わりがあるため十分とは言えないが、職員教育を継続的に行っている。しかし、地域との協力体制までは築けていない。	火災には人為的な連絡ナシで消防署が5分で駆けつけるシステムも備え、法定訓練が実施されています。運営推進会議では貴重なアドバイスを得ていて、自宅に戻った職員連絡については課題が明瞭となっています。	課題が明確になっていることについては、早期に着手することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に十分注意している。	呼称は「～さん」、敬語がルールです。また「汚物は新聞紙にくるんで」「トイレの消耗品は扉のある棚へ」は徹底されています。養館と泉館は中庭に洗濯物を干していますが、「下着は見えない場所へ」と配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を表現しやすいよう話を傾聴するよう努めている。また、認知症が進行した方には選択肢を出す等し、表現しやすいよう声かけや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等、入居者個々のレベルや嗜好に合わせて提供しており、一人ひとりのペースで取り組むことが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容出張サービスでは、利用する方の好みを伝えられるよう支援している。また、本人・家族の希望で日常的にお化粧していただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ一人ひとりに合ったかたちで食事の準備や片付けに参加して頂いている。週1回程度手作りご飯の機会を設け、調理や盛りつけなども通して食事を楽しめるよう努めている。	普段はセントラルキッチンですがほぼ週1回の手作り食に努めています。全利用者が自ら下膳していてスムーズなためか、食後まもなくのテーブルで洗濯たたみが始まり、役割を發揮する満足気な表情に溢れていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立て、月1回の給食会議で内容を検討し、バランスの良い食事を提供している。また、一人ひとりの体調や状態に合わせ、栄養補助食品を用意する等もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの声かけ・支援を行なっている。月1回歯科衛生士に来館して頂き、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンやトイレサインを把握し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。また、バット等も本人の尿量や状態に合わせた物を選択している。	「ADL状態が低下しても容易にオムツにしない」方針の下、紙パンツを最終段階とし「トイレでの排泄を」と工夫しています。そのためには画一的な対応ではなく、「この人には～」と、検討が随時行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から摂取水分量や排泄の確認を行い、腹部マッサージや運動の促し等、できる限り自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者全員に週2～3回入浴できるよう支援している。夕方から就寝前に入浴を行ない、夜間浴に取り組んでいる。体調や気分に応じて入浴日を変更し、できる限り希望に沿えるよう努めている。	2日から3日をめやすに、夕方から夜にかけての入浴は幸館の自慢の支援として定着しています。「お風呂っていいよね～」と漏れるような言葉が聞かれ、温かなお湯に浸かる効果を職員も実感しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が就寝したい時間に入床して頂けるよう、介助を要する方も様子を見て就寝介助している。居室の温度や明るさ等、本人が気持ちよく眠れるよう調整し、夜間2時間おきに見回り、安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科医・精神科医の往診時には、看護師と職員が付き添い、医師からの指示を職員全員に伝えている。処方内容を変更した際には様子観察・記録をとり、随時看護師・主治医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割を見つけ、活躍できる環境を整えている。また、感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じて頂けるよう支援している。個人の趣味や習い事など、講師に来館してもらい楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に応えることが出来ない場合もあるが、季節に合わせた外出をしている。また、家族の協力を得ながら毎年1月の初詣では県外へ出向き、5月には地域の祭りに参加している。	初詣は家族も誘い、外食も楽しみとして帰ってきます。桜、紫陽花、薔薇、木蓮、紅葉と、時節の花ドライブは頻回に実施され、また中庭での洗濯干し、玄関前のベンチでの外気浴、お地藏さんへのお参りもあり、元気への源泉となっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にはお金を所持して頂き、使用して頂いている。殆どの方が自己管理することが難しく、使用する機会があまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて携帯電話を利用して頂いたり、希望に応じて電話や手紙のやり取りができるよう支援している。普段手紙等を出すことがない方にも、暑中見舞いと年賀状を家族宛に送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく暮らせるよう、照明や温度を調整し、テーブルや椅子等の配置を工夫している。季節の花や飾り付けをし、装飾なども工夫している。	玄関にはそれぞれの願いが描かれた手作り絵馬があり、また和室には雛人形が飾られ三月の女祭りを待つばかりです。中庭にはカラフルな小花が咲き乱れ、木々の枝には輪切りの蜜柑が刺してあり、小鳥が舞い降りていました。	清掃ルールを見直すことを期待します。例. 毎日の清掃のほかに、細部については月例で1度行う
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファースーツを置き、廊下や玄関、玄関先にもベンチ等を設置して、いつでも誰でも使用できるようにしている。介助を要する方も、居心地良い場所に居られるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談し、使い慣れた家具や愛用していた物等を持って来て頂き、落ち着いて過ごせる空間となるよう努力している。	仕立て屋だった人の部屋には足踏みミシンがありました。畳間が3室、洋間が6室あります。選べませんが和室にベッドと、好みを尊重しています。洗面所もあり、昔懐かしいアパートメントの雰囲気は漂い落ち着きます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口ドアには、一人ひとり違う色が使用されており、表札には名前と一緒に本人の写真を入れ、自分の部屋だと認識しやすいよう工夫している。		